

琉球大学学術リポジトリ

復帰準備（対内）（政府調査団派遣等）－防衛庁、
防衛施設庁－(3)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-01-29 キーワード (Ja): 復帰準備, 防衛庁, 沖縄調査団, 試射場 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43393

自征隊機，不時着事故

近藤審政 安全保衛課長

北米局長 参事官

北米課長
総南連第1701号
昭和42年7月6日

総理府特別地域連絡局長 殿



那覇日本政府南方連絡事務所長

航空自衛隊機の不時着事故に関する件

標記の件については、すでに7月5日貴職へ都度電話通報したところであるが、本件事故調査のため即時現場へ派遣させた当事務所幹部等からの報告、事故発生当日来所した航空自衛隊幹部等からの報告、その他関係先への照会を総合した結果、事故の状況等を確認したので、本件に関する事項を次のとおり取りまとめて報告する。

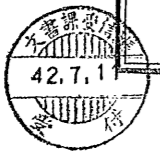
記

- 1 発生日時
昭和42年7月5日 12時33分頃
- 2 発生場所
米海兵隊所属普天間飛行場東南方約4.5マイルの海上(沖縄中城村字添石在 海岸から約200メートルの海上で、着水

地点の水深は約5~6メートルである。)

- 3 事故発生確認の端緒
5日 13時10分頃 高等弁務官府レイ情報調整官補佐官から本使あての電話連絡による。
- 4 事故の概要
 - (1) 陸上自衛隊幹部候補生学校(校長 上妻正康陸将)の昭和42年度第1次沖縄現地研修の第2梯隊(指揮官 横正弥一佐以下146名)を板付飛行場から輸送中の航空自衛隊輸送航空団第401飛行隊所属のYS11機2機およびO46型機4機のうち最後尾の6番機O46型(機長 久次米啓吾二等空尉、機体番号JF51~1125)が目的地である普天間飛行場に到着前、国頭村奥間のラジオステーションを12時16分頃無事通過し、同飛行場の北方向約50度約5マイルの地点(金武湾)にさしかかった際同地点の上空、約2,000フィートの高さで突如大音響とともに右発動機が海中に脱落した(エンジンの脱落地点は海上であることは搭乗員が確認しているが、詳細な地点は、目下のところ不明である。)
 - (2) この不慮の事故直後同機のパイロットは左発動機のみでエンジン操作を行ない、51エア、ディフェンス、コントロールセンター(防空中央統制局)と連絡をとりつつ航空管制の指示を受け(エア、ディフェンス、コントロールセンターでは同日、

要研究至	
課長	
英 河 内	
山 中 吉 山	
森 山 坂 三	
相 川 関 十	
中 田	
橋 本	



12時50分ごろ当該046機からエンジン事故の連絡を受け、直ちに33航空コントロールセンターに情報報告している。)ながら、前記久次米機長はそのまま直進すると山岳に激突するおそれ充分にあるので海面に不時着水するとの判断を決め、進路を変えて海上に戻り12時33分頃前記2の地点に着水した。

(3) 同機は着水後約10分間海上に浮上していたが、その後海底(水深5~6メートル)に沈み、沈下した際後部垂直尾翼約20センチメートルを海面から現わしていた。この間に、機長の指揮により同機搭載のゴムボート(備付け救命ボート)4台に搭乗員全員22名(機長以下乗組員5名、搭乗幹部候補生研修団17名)が携行品全てを携えて乗り移り、自力で無事脱出、最寄り海岸に上陸した。

(4) その後、米軍側では情報を入手した第33救助中隊(33エアレスキュースクワードロン)のヘリコプター4機が自衛隊員上陸の海岸現場に到着(同救助隊では情報入手6分後(12時45分)現場に到着したとのこと。)し、全員22名を米陸軍病院(院長コックス軍医大佐)に空輸した。同病院で米軍医の検診を受けたうち、同日、同機隊の1番機(Y811)で普天間に無事到着した陸上自衛隊幹部候補生学校の前記機一等陸佐が同病院で全員を点検したが、22名のうち1名が軽い擦過傷(着水の際膝下を擦過したもの)を受けた程度であり、事後全員予定どおり行動する

よう指示し、人身被害については無事故であることを確認した。

5 南進の措置

(1) 5日13時10分頃米側から事故発生電話連絡を直接受けた本使は、直ちに米側関係機関に照会確認するとともにとりあえず第1報を貴局に電話にて速報し、事後すみやかに当事務所法務担当事務官をして陸上自衛隊幹部候補生学校の連絡担当官(稲田一尉)および琉球警察本部警備課長に事故の概要を照会させ、その結果を貴局へ電話にて第2報として速報した。

(2) その後、13時40分頃、事故調査のため当事務所次長宇土条治、庶務係長山城勉、渡航係有村善一の3名に現地自衛隊責任者からの事情聴取、高等弁務官情報調整官フランクリンク・トータラット大佐との連絡、米陸軍病院における調査等の任務を付与し、現場に急行させるとともに、第一課長松尾寿一郎をして報道関係の規制総括の任にあたらせた。

(3) 13時55分頃、現場に派遣した上記宇土次長以下3名から陸上自衛隊幹部候補生学校と^と三佐(当該事故機乗員の長)、米陸軍病院長コックス軍医大佐および情報調整官トータラット大佐に会った結果についての電話報告があり、更に16時30分頃、陸上自衛隊幹部候補生学校研修団の指揮官楨正弥一等陸佐、防衛庁航空幕僚監部総務課総務班長植草義四郎一等空佐および防衛庁長官総務課粟飯原道夫人事係長の3名が来所し、植

草一佐から事故概要の報告を受け、事実を確認するとともに、
榎一等陸佐に対し米軍側の迅速な救助活動に対する謝意の公式
発表をすること（榎一佐自身本件事後処置にぼん走中のため、
右公式発表は多少遅れたが6月14日これを了した。）、植草
一等空佐に対し、今後の報道関係者への発表は防衛庁航空幕僚
監部の指示を求めて来島中（7月2日～7月6日）の航空自衛
隊幹部候補生学校副校長松島龍夫空将補の責任で航空自衛隊側
で直接行なりこと等要請し、事後措置について協議した。

(4) 17時40分、上記事故の概要等を第3報として貴局に電話
にて通報した。その後、航空自衛隊側（松島空将補）から松島
空将補が関係村当局（中城村）に赴き、村長（城間盛栄）に事
情の説明等を行ないたい旨連絡を受けたので、18時30分頃
当事務所法務担当事務官をして城間盛栄中城村長に直接電話さ
せ、当該事故事実の概要を通知するとともに、本件事故が不可
抗力のものであつて、パイロットの冷静沈着な処置によつて被
害を村当局に及ぼさないよう海面に不時着したと、来島中の
航空自衛隊の最高責任者が明6日早朝謝意表明等に中城村長を
訪問したいこと等通報し、その結果を航空自衛隊側（松島空将
補）に伝達した（注：7月6日午前、松島空将補その他幕僚は
中城村長を往訪した。）。

(5) 6日11時48分本使は高等弁務官を往訪し、米軍側の迅速

な救助作業及びその他の便宜供与に対し、深甚な謝意を述べた。

6 その他参考事項

(1) 本件事故（発動機の脱落）の原因については、目下のところ
不明であるが、来島中の航空自衛隊側（松島空将補）としては、
313師団米海兵隊および在日米軍事顧問団を通じて在琉米軍
当局および米国民政府とも連絡をとりつつ、本件事故原因の調
査のため防衛庁側からの事故調査団を7月6日沖縄に派遣させ
ることとなつた。

日
(2) 現在、当該事故機周辺の警備は、米軍憲兵隊および琉球警察
普天間警察署が担当している。

本信写送付先 外務省北米局長
警察庁警備局長
防衛庁長官官房長

北米局長

参事官

基米課長

沖繩で自衛隊機不時着(40-)

(42.7.5
北米)

7月5日午後特運局からの連絡によれば、5日12時
自衛隊陸上幹部候補生18名を乗せた自衛隊機は、

エンジン故障のため、普天間の東5マイルの海上に不時
着した。ただし、生命は全員無事で、1名が軽傷

を負った程度の模様である。

Good Mornings Begin



FISH CRASHED C46 FROM SEA

The Japanese Self Defense Force C46 which crashed into Buckner Bay July 5 with 17 JSDF officer candidates and five crew members aboard is hauled up by a heavy crane onto a cargo barge of the Army's 2nd Logistical Command. None of plane's occupants was injured in the ditching and were rescued by helicopters before the plane sank in 20 feet of water. The two-day salvage operation was under the direction of the directorate for terminal operations. Cause of the crash is still under investigation. (U.S. Army Photo)

北米局長

参事官

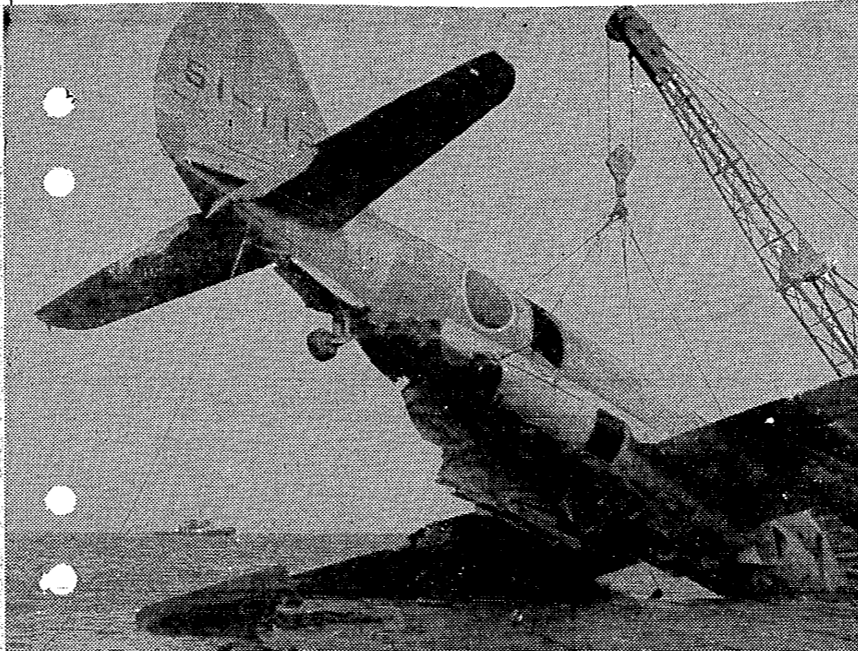
北米課長

沖縄で自衛隊機不時着(40-)

(42.7.5)
(北米)

7月5日午後特連舟からの連絡によれば: 5日12時
自衛隊陸上幹部候補生18名を乗せた自衛隊機は、

エンジン故障のため、普天間の東5マイルの海上に不時
着した。ただし、生命は全員無事で、1名が軽傷



FISH CRASHED C46 FROM SEA

The Japanese Self Defense Force C46 which crashed into Buckner Bay July 5 with 17 JSDF officer candidates and five crew members aboard is hauled up by a heavy crane onto a cargo barge of the Army's 2nd Logistical Command. None of plane's occupants was injured in the ditching and were rescued by helicopters before the plane sank in 20 feet of water. The two-day salvage operation was under the direction of the directorate for terminal operations. Cause of the crash is still under investigation. (U.S. Army Photo)

秘
無期限

安部理臣

北米局長
参事官
北米課長

沖縄で自衛隊機の不時着 (No.2)

(42.7.5)
北米

標記の件については (No.1) にあつて既に報告のとおり。

7月5日午後6時特連局からの連絡によれば事故の詳細

及び今後の措置については下記のとおり。

記

7月5日 12時33分 (午後0時33分) 普天間飛行場
東南方4.5km、海岸より200m、水深5~6mの地突

で自衛隊機が不時着。所属は航空自衛隊輸送団
401飛行隊、C-46、機体JF51-1125、機長

久留米陸軍、板付から陸上自衛隊沖縄研修幹部
候補生計画中の6番機。12時16分奥海上空無事

通過後金武湾上空2000メートル地突で大音響とともに
右エンジン落下。片側エンジンで航行するも山中に激突

GA 6

外務省

1830

可恐れのため上空地突に着水。乗員5名、研修生
17名は全員無事。1名さか傷程度で行動に支障

なし。機体は10分位浮上した後、海上に尾翼20cm
程度をのこせたま、その他は海中に没する。油が流出した。

海上の損害については調査中。中央からの調査派遣に
は目下依頼中なるも、この日は6日正午まで発表しない。

携行品はおへいコムポートで海岸まで運んである。

(なお、5日午後5時防衛庁教育課伊藤主任官
より北米課に対し、~~MAAG~~を通知し、YS-11型機を
MAAG 本件事故機に代りし。

沖縄に派遣するとの連絡があった。

このころ、同僚を ~~本件~~ 本件
機に

GA 6

外務省